

山形県鼠ヶ関川におけるアユの生き残り過程

内水面利用部

協力機関：山形県内水面水産試験場

研究の背景・目的

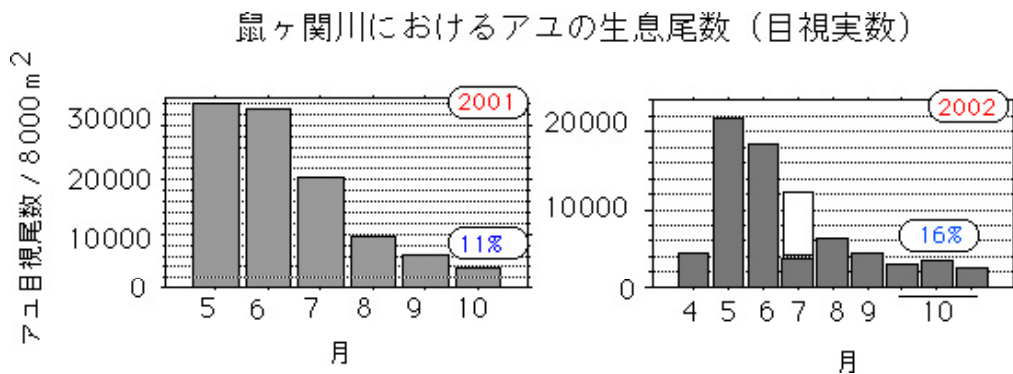
1. アユの資源管理計画を立案するためには、アユが春に河川に遡上し漁場に定着してから、秋に産卵し、生まれた仔魚が海に下るまでの生き残りを把握する必要がある。

研究結果

1. 鼠ヶ関川では、5-6月に河川に遡上したアユの11-16%が、10月の産卵期にまで生き残ることが明らかになった。
2. 産卵数の15-21%に当る卵から孵化した仔魚が、海の生育場までにたどり着けることが明らかになった。

波及効果

1. アユの生き残り過程を知ることによって、次世代を生み出す親の保護や適正な放流密度を決定することができる。



鼠ヶ関川におけるアユの生き残り

	2001年	2002年	
遡上稚魚	17	10.6	万尾
産卵親魚	2 (410)	1.7 (360)	万尾 (kg)
卵生産量	13161	11518	万粒
海域に加入した降下仔魚数	2800	1768	万尾
稚魚期～親魚	11%	16%	自然+漁獲
卵～仔魚降海	21%	15%	自然
海域～遡上	0.4%?	%	自然